

Growth

店舗の大型化・新鋭化
地区再開発

首都圏の大型プロジェクト — 営業基盤拡充によりプレゼンス向上

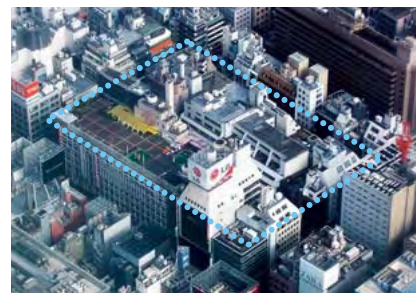


大丸東京店(1階 新エントランス・2階 デッキイメージ)

J.フロント リテイリングは、店舗の魅力化と営業基盤の更なる強化をはかるため、大都市圏での百貨店店舗の大型化・新鋭化を進めています。

2011年4月16日に従来の1.6倍に増床した大丸梅田店に引き続き、大丸東京店は2012年秋に現在の1.4倍の46,000㎡に増床する第2期オープンを予定しています。東京店は2007年11月に「TOKYO・オナ・ライフスタイル百貨店」をストアコンセプトに、新店として第1期移転増床オープンしました。第1期では、従来からの強みであった食品部門をさらに充実・強化しつつ、都内最大規模のコスメフロアをはじめ、24時まで営業の店舗も備えた2層展開のレストラン

フロアを拡大・強化し、東京駅周辺で働くOLやビジネスマン、そして東京駅を利用する多様な方々に人気を集めています。そして2012年第2期本格オープンでは、東京駅を利用される幅広い層のお客様を対象とし、程よいファッション性とブランド力のある東京で人気の商品を取り揃えるとともに、B1、1F、2Fには新エントランスも設置し、ご来店いただくお客様の回遊性を高める売場展開を行っていきます。強みである食品は圧倒的なものとしてさらに強化するとともに、ファッションでは百貨店ならではのブランドから、ファッションビルで人気のショップまで幅広くラインナップ。さらに集客力のある大型ショップの導入なども検討しています。同店は、八重洲口、日本橋口、丸ノ内口、JR駅構内も含めた東京駅をひとつの大きな街としてとらえる「Tokyo Station City/東京ステーションシティ」構想の中に位置づけられており、首都玄関に相応しい斬新な店づくりを目指しています。投資額は1期、2期合わせて180億円を予定しています。



松坂屋銀座店再開発予定地

一方、松坂屋銀座店では、同店を含む銀座6丁目2街区を一体開発する大規模プロジェクトが進行中です。再開発となる敷地面積は約9,000㎡で、うち約65%を松坂屋が所有しています。一体開発する建物は、地上12階、地下6階、高さ56mを想定し、地下2階から地上6階は商業、7階から12階はオフィスを予定しています。併せて、観光客を迎え入れるためのバス乗降スペースや、銀座全体の都市機能高めるための地下道の新設、緑の創出と環境負荷軽減のための屋上緑化など、環境や都市基盤の整備に寄与するという視点による地域貢献についても検討が進んでいます。J.フロント リテイリンググループが展開する商業施設については、世界的商業立地である銀座に相応しく、グレード感があり、先進性、ファッションイメージの高い店舗の構築をはかります。

こうした東京駅地区、銀座地区における2つの大型プロジェクトへの取り組みを通じ、J.フロント リテイリンググループとしての首都圏におけるプレゼンスを飛躍的に高めたいと考えています。



